

ヒートポンプ・蓄熱システムの海外普及に向けた活動

01

第3回アジア・ヒートポンプ・蓄熱・技術ネットワーク (AHPNW) の国際会合をベトナム・ハノイで開催

平成23年10月にアジア5カ国(中国・インド・日本・韓国・ベトナム)のヒートポンプ関係者により設立したAHPNWの第3回会合が平成25年10月8、9日にベトナム・ハノイにて開催され、初日はオープンセミナー形式で約40名が出席しました。セミナーでは、ヒートポンプ・蓄熱システムの普及動向、エネルギー効率手法の開発、太陽光収集器との組み合わせ実証実験、新冷媒研究などさまざまなテーマの発表(下記ホームページにて公開)が行われました。日本からは、我が国が誇る最先端技術である「産業分野におけるヒートポンプ」についての専門家である中部電力株式会社渡邊謙雄氏に産業用ヒートポンプの仕組みや冷媒、製品別の適用可能な工程、実際の導入事例等について、講演頂きました。AHPNWはニューズレターの発刊および会合の開催だけでなく、今後は共同プロジェクトの実施等により、AHPNWの認知度・プレゼンスを高めるとともに、アジア諸国への参加国の拡大も図っていきたいと考えております。



▶▶ AHPNW ホームページ

<http://www.hptcj.or.jp/e/ahpnw/tabid/571/language/en-US/Default.aspx>

02

国際エネルギー機関 (IEA) 書物

「持続可能な建物への転換：2050年への戦略と可能性」の発刊

本書物は「エネルギー技術展望(ETP)」の一部としてエネルギーの最終用途(建物・産業・運輸)のうち、建物分野において2050年までにエネルギー消費量とCO₂排出量が大幅に削減するシナリオと戦略の可能性について記述したものです。以下に内容を抜粋したものを記述。

■建物分野は世界の最終エネルギー消費量の約1/3を占めており、この分野でのエネルギー消費の削減にはヒートポンプを含む省エネルギー技術とインセンティブ(ラベリング・補助金など)を組み合わせることが必要不可欠である。

■冷暖房の汎用技術であるヒートポンプ製品の性能は大幅に向上しており、最先端をゆく日本では寒冷地向けヒートポンプ(外気温度マイナス25℃でも運転可能)や高効率ターボ冷凍機(インバータ利用よりCOP29を達



成)などもある。

■住宅分野では生活水準の向上とともに給湯需要が拡大し、ヒートポンプ給湯器に注目が集まっている。なお、日本ではCO₂冷媒のエコキュートが年間約50万台導入されている。

■供給側の対策では電力負荷の増大に伴い、蓄熱システムの必要性も増しており、最適設計・運用により負荷平準化への貢献が期待されている。

建物分野の大半を占める冷暖房・給湯分野において、ヒートポンプ・蓄熱システムはCO₂を削減出来る有効な技術としてIEAが2011年に発刊した技術ロードマップにも取り上げられています。今回発刊された本書物は各国のエネルギー政策担当者が着目する「エネルギー技術展望(ETP)」の一部と位置付けられているため、今後、国内外のエネルギー政策に反映されることが期待されます。当センターでは最先端技術として日本が誇るヒートポンプ・蓄熱システムが正当評価を受けるよう引き続き国際機関への働きかけを実施していきます。